

1. 2. 9 英語科

山城 仁・菊池 智美・森 美穂

1. 研究主題

英語技能の運用能力を養うカリキュラムの開発と実践 ～ 中学英語の指導方法を探究する ～ (二年度)

2. 研究主題について

本校英語科では、表記の研究主題に基づき、英語技能を育成する学習のあり方、それらの習得を促す指導の工夫を具体化する実践開発に取り組んできた。昨年度の「研究紀要2017」(東京学芸大学附属世田谷中学校、2017)に新たに付け加えた点として、各学年の指導計画を構想する際に、英語技能をより体系的に養うカリキュラムの検討ということが挙げられる。今年度英語科では、英語技能を養っていくためには学習者にどのように学習させるか、また、それらは習得を促していく学習内容になっているかという視点について中心的に検討を重ねてきた。学習と習得をカリキュラムの中核とし指導計画をデザインすることは英語技能を体系的に指導する視点を持つことにつながるとともに、広い意味での技能統合・獲得を促す。このデザインにおいては学習者自らが英語技能を活用し、より自身のできることを広げていくことを中心に据え、その教育的支援を教師が行うことが重要であると考え。カリキュラムのデザインにおいては生徒の英語技能を育成していく視点を持ち、生徒の持っている知識・技能に応じた課題を設定すること、知識・技能のつながりに配慮した単元を構成すること、単元間の指導に関わりを持たせることをさらに反映させていく必要がある。

生徒の育成という視点・概念は中学校学習指導要領(平成33年4月1日全面实施)解説外国語編においても多く明示されている。その中では生徒育成の視点として「外国語を使って何ができるようになるか」について触れ、その内容を明確にする観点として次のように記述されている。

外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。(下線は執筆者が加筆)

つまり下線部からは知識・技能が獲得されることにより学習内容の理解が深まること、知識・技能が育成されるためには資質・能力に関わり合うことが読み取れる。では、知識・技能や資質・能力とは一体何を指しているのだろうか。

まず資質・能力について整理したい。中学校学習指導要領総則では、育成すべき資質・能力を(1)学習の基盤となる資質・能力、(2)現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力に大別し、前者には言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力が挙げられている。外国語科は、「中学校学習指導要領解説総則編」において「言語能力の向上を目指す教科等である」と位置付けられている(金子・松浦、2018)ことから、外国語科における資質・能力は言語能力と言い換えることができる。

次に知識・技能について整理したい。「知識」の側面としては、外国語の音声の特徴、語彙、基礎的な表現、文法、言語の働きが挙げられる。これらの知識を「実際のコミュニケーション」において活用・運用する能力を「技能」の側面として捉えることができると考える(金子・松浦、2018)

これらのことから、上述した「知識」を運用・活用しながらコミュニケーションを図るための「技能」の育成を、場に即した語彙や文法の選択をしたり、伝えたい内容を流暢に表現したりすることなどに関わり合わせの中で総体的に伸ばさせていくことが求められていると捉える。

本実践報告は生徒が獲得する、している「知識」の側面を実際のコミュニケーションにおいて活用・活用する能力、つまりは「技能」をどのように育成していくかを検討するものである。その具体的な指導の手立てとして実践した授業内容は各学年からの実践報告として以下の項で述べる。

3. 中学校英語科における「習得」「練習」の解釈

本校英語科では、中学校英語科における大きな目標を「生徒が言語の各技能をスムーズに運用できるようになる」とし、それぞれの技能を相対的、統合的、体系的に指導していくにはどうすればいいかについて研究を進めている。ここでいう「言語技能のスムーズな運用」とは生徒が既に獲得している、もしくはこれから獲得する言語知識を流暢に活用することである。そしてその言語知識を流暢に活用できるよう熟達することを本校英語科における「習得」と位置付けている。

言語を習得していくには学ぼうとしていることを繰り返し練習し、できるようになる伸長感、達成感が必要である。繰り返して行う練習というと機械的にドリルをすることなどがよくイメージされがちである。しかし、機械的に行うドリルはDeKeyser (2007) にmechanical drills can only serve a very limited purpose, because they do not make the learner engage in what is the essence of language processing, i.e., establishing form-meaning connections. 「機械的ドリルは限定的な目的のみ功を奏する。というのも言語処理に不可欠な要素である形式-意味の繋がりを深めるのに寄与しない。」とあるように、習得に向けた効果は限定的であると言える。

第二言語習得研究において「練習」は、specific activities in the second language, engaged in systematically, deliberately, with the goal of developing knowledge of and skills in the second language. 「(練習とは) 第二言語における知識やスキルを伸張させるために体系的、意図的に取り組まれる活動」(DeKeyser 2007)と定義されている。「知識」についての解釈は第二言語習得研究の分野でも大きく意見が分かれている。「知識」について教育的な立場から検討すると、宣言的な知識は手続き的な知識とインターフェイスな関係にあり、習得させていくことによって手続き的な知識を習熟させていこうとする立場をとっているSkill Acquisition Theoryを検討することが望ましいと考える。ここで課題として、宣言的な知識、つまりは文法事項をいつ、どのように教えるのかという疑問が上がる。執筆者の立場は、学ばせたい文法事項をまず最初に、明示的に教えるということではない。今生徒自身が保持している言語知識をもとに、学ばせたい文法事項を体系的、意図的にexposeさせながら手続き的な知識を相補するというインターフェース(図1)を想定している。

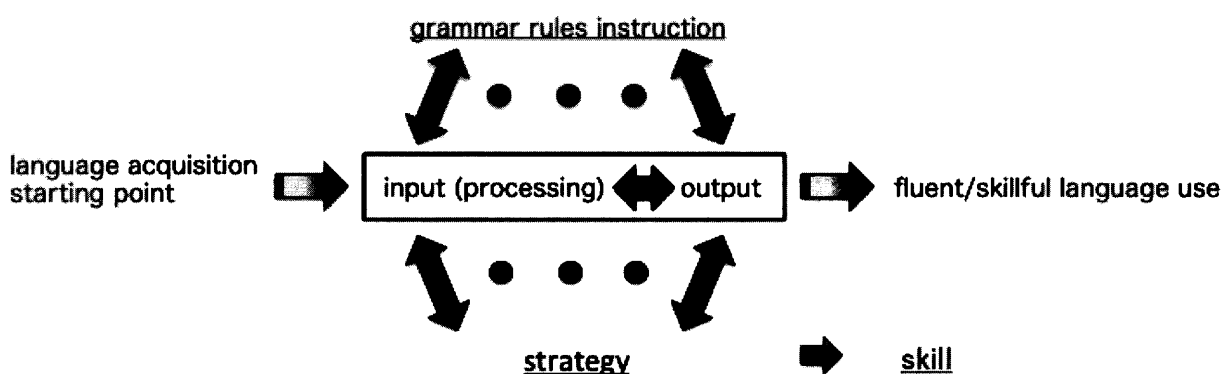


図1 習得プロセスのモデル

4. 附属世田谷中学校の英語指導

本校英語科で伝統的に取り組んでいる活動として「スピーチコンテスト」「リスニング指導」が挙げられる。このスピーチコンテストは、2年生と3年生の9月に毎年スピーチコンテストを学年単位で行っている。これは、それまでの学習の成果をお互いに確認しあう場で、まずは、クラス内で予選を行い、各クラス3名の代表者、合計12名によるスピーチを全員で聞くというイベントである。大学から審査員を呼び、12名中上位5名を優秀者として順位をつけて表彰している。原稿を準備する段階から見ると、まさに4技能が統合された活動である。本線の様子は、芸術発表会(文化祭)の時に、ビデオで一般公開し、他学年の生徒も見ることができるようになっている。このコンテストは本校で30

年以上にわたり行われている伝統行事となっていて、次の学年の生徒がかなりこのスピーチを意識し、自分たちが取り組む時期になると、「先輩と同じように、がんばりたい」という気持ちで生徒のモチベーションが上がっている。学年としても大きなイベントになっている。

「リスニング指導」は「基礎英語」と「リスニング教材」であるGreen Book、Blue Book、Red Bookという冊子を与えている。基礎英語については、3学年ともNHKのラジオ講座を家庭で聞くように指導している。授業の小テストや期末テストに関連した問題を出題し、評価の対象としている。さらに、1年生にはGreen Book、2年生にはBlue Book、3年生にはRed Bookというリスニング用の教材を与えている。これは、教科書の文法事項とほぼ同じ内容を使って、カナダの中学生の会話を自然なスピードで録音したもので、初めて聞くと非常に速く感じるが、繰り返し聞くことにより、生徒のリスニング能力の向上が見込まれる。

また、第1学年と第2学年では週に1度ALTとインタラクションをする時間を設けている。その時々で設定されるテーマについて生徒は事前に準備した内容について完成度を高くして臨んだり、その場でテーマを知り会話をしたりしている。その内容や評価についても事前にALTと打ち合わせしながら決定している。

各学年では日常的に取り組む実践に工夫を加えること、そして本校でオリジナルに取り組んでいる活動を上手く位置付けたりALTと共同したりしながらインプットからアウトプットへの流れをより効果的、有機的につなげるための手立てを開発している。それらを通して生徒の英語技能を高める手立てを検討するとともに中学英語の可能性を広げたいと考えている。

(執筆担当：山城)

金子朝子・松浦伸和編著 2018 中学校新学習指導要領の展開 明治図書

森美穂・山城仁・菊池智美 2018 英語技能の運用能力を養うカリキュラムの開発と実践～中学英語の指導方法を探求する～ 東京学芸大学附属世田谷中学校研究紀要2017、149-167.

(1) 既習事項の振り返りと方略的な表現方法の意識付け

担当教師：森 美穂

1 年生では「教科書を中心に扱う授業（週4時間）」と「外国人講師とのチーム・ティーチングの授業（週1時間）」を行っている。

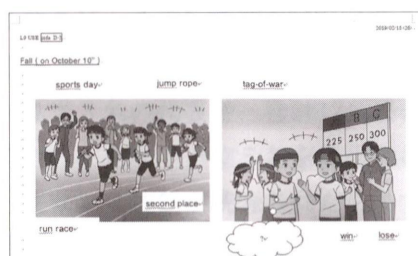
A L T との授業では「教科書を中心に扱う時間」で習ったことの実践及び定着を図ることを主な目的として、色々な形態による授業を行った。50分の授業だけでは十分に練習しきれない単語や表現などを練習する時間も多く取った。また、それぞれの時間の最後に毎回「振り返りシート」を記入させ、授業への取り組みや英語に関して気になったことや質問を書かせ、回収しチェックした後に返却している。この振替入りシートに生徒が記入したことを授業に活かすように心がけた。今年度の1学期の授業では、挨拶や自己紹介、数字の発音練習、日付（序数）や月、誕生日の言い方、家族について、および疑問文を含む会話の練習など基本的な語彙の定着を中心に行った。2学期以降はA L T の前でのグループプレゼンテーションやインタビューを主な活動とし、個人の発話量を確保した。3学期については、ある程度まとまった量の発話を意識させ、A L T とのインタビューをもとにミニスピーチを行った。

上記のようなA L T とのインタビューやスピーチ、またリテリング活動の1つとして写真を英語で説明する際に、生徒は「英語でどのように表現すれば良いのかわからない日本語や語彙」があるため、達成感を感じにくく、このような活動に対する苦手意識が強い。授業内で口頭練習した表現をノートに書き起こすという家庭学習を習慣づけているが、言えなかった語彙について辞書を使用して表現しようという姿勢が見られる。しかし、誤った語法で、書いた生徒自身も意味が分からずに難しい語彙を辞書で調べたままに使用していることもある。このような難しい語彙も既習事項で方略的に表現できることを意識させたいと考えている。実際に生徒が英語で表現したかった日本語をもとに、教科書での内容描写・既習表現を踏まえて、英作文をすることで、自己表現する際にも自ら教科書を振り返り、活用していく姿勢を身につけさせたい（実践例は後述）。

実践例：方略的な表現方法の指導について

1学期末にライティングの課題として「自己紹介文」を英作文すると、話の広がりが少なく、1つのトピックにつき1文しか書けないような生徒が多くみられた。そこで、2学期は教師とのQ&Aにおいて、1問に2・3文で返す練習を繰り返し行い、1つのトピックにつき複数文で表現させることを意識的に指導した。2学期のA L T のインタビューでは、複数文で答えようという姿勢は見られたが、インタビュー後の振り返りシートには「言いたいことはあったのに言えなくて、沈黙してしまった。／諦めて答えなかった。」という感想が多かった。生徒は「単語を知らなければ、言えない」という考えに固執してしまっており、その単語を使って表現した内容を方略的に表現できない。情景や感情を描写することで、語彙を知らなくても自分が言いたかった内容を方略的に表現できるのだと認識させるために次のような授業を行った。

1) 教科書の内容について、ピクチャーカードとキーワードを用いて口頭で説明する。その後、自分が話した内容を他の生徒の発表をもとにライティングする。その際に、「言えなかった表現」も日本語で記入させる。



例) 生徒から出た表現

「勝ちたかったのに、勝てなかった」

「悔しかった」「疲れ果てた」

「残念だった」

2) 生徒から出た表現について、生徒たち自身がグループで英語にしてみる。


例) 「悔しかった」

Emma was not good at running,
but she practiced very hard.

She really wanted to win
because her grandparents came to see her.

She did her best but she didn't win the race.

She was sad. She wanted to try again.



3) 実際に生徒が作った英語を参考に、語彙が分からなくても表現できることを確認した。その時のポイントとして、「出来事を詳細に描写する」「感情を入れる」「理由を述べる」の3点を挙げた。実際に、球技大会や運動会で自分自身が体験したことや感じたことなど、いくつかの例を英語で表現をしてみる。

この際、提示するキーワードを段階的に抽象化することで、方略的に表現することに慣れ親しませるようにした。

例) 生徒の発表例

Mr ○○ is good at running. He was looking forward to this relay race. He thought he could win because he practiced a lot. He didn't want to lose the race.

得意種目 自信がある 負けてたまるか



負けず嫌い 練習量

例) 生徒の発表例

I was so happy because we never won the game in a practice. We won the game for the first time.

I am looking forward to next sports day.

自己表現活動




運動会直後の自分の気持ちを書いてみよう

4) 上記のような活動で、方略的な表現方法を意識させた後、教科書の既習内容をテーマにしてライティング活動を行った。内容として書くべきことが指定されているため、文法的に同じ間違いをする生徒が多数おり、生徒が間違いやすいポイントを把握することができた。それらの間違いを確認し、正しい表現を身につけることができるようになる。この際、生徒が実際に書いた英文を可能な限り数多くお互いに共有することで、文法的な誤りだけではなく、1つの日本語に対して、既習事項を活用して、何通りにも表現できることを確認した。

例) 文法的な間違いを共有

11 Emmaが週末に秋田に行った日についてブログ記事を書きました。次の条件にしたがって、ブログ記事を5文以上で書きなさい。(10点)



【条件】

- 秋田県の風景について書くこと (オウゴンや大曲の温泉施設について書くことも、秋田県内の観光地をたくさんで説明すること)
- 「オウゴンデラ」について必ず書くこと
- 上の表は、この日のEmmaの感想です。Emmaのこの気持ちを表現できるように、授業中に確認した、3つのポイント (出来事・風景・感情) を使ってください
- 5文以上で書くこと (5文よりたくさん書いても構いません)
- Emmaのブログ記事ですので、Emma目線で書くこと

Akita is very cold

I went to Akita last weekend. There was very cold. I saw a lot of kamakura. They

例) “最高”という気持ちをどのように表現するか？

相手に勧めることで、良さをアピール

I went to Akita last weekend. I saw a lot of
kamakura. But I didn't make it. Some volunteers
made them. I was into a kamakura. It was very cold.
But it was not a problem. I have two reasons.
First, some volunteers made them for my people.
I wanted to say thank you to the volunteers.
And I don't like cold but I ate rice cakes.
It was hot!!
I had a great time last weekend. You should go to
Akita and try rice cakes in a kamakura.

何が良かったのかを具体的に表現する
感情や思ったことを具体的に表現する

It was warm inside the kamakura. And the
local people were very kind to me. I thought,
"Akita is very good town." You can go to the
Akita. Maybe you like this town.

5) このライティング課題については、内容をあらかじめ伝えておくことで、生徒は教科書の内容を各自振り返ってから取り組んでいる。生徒の中には教科書の書き換えで終わってしまう生徒もいるが、クラスメイトとの学び合いで、多様な表現を共有し、もう一度書いてみることで、より良い表現を目指す姿勢が見られるようになった。また、教科書の既習表現を中心としたライティング活動を繰り返すことで、「表現したい」けど「わからない」ときにすぐ辞書に頼るのではなく、まず教科書や自分のノートを見返すことを意識させている。

例) 授業で扱ったwantを使用して表現する

I went to Akita last weekend.
I saw a lot of kamakura.
Some volunteers made them.
I didn't make them but I ate rice cakes
in one.
I don't like cold but it was so nice.
I want to go there with my friends again.

1年次ではライティング活動において方略的な表現方法を確認したので、2年次では実際にライティングした英文を活用してスピーキング活動へ展開させたいと考えている。

カリキュラム表

月	教科書	スキル別重点活動		備考
		聞き・話す	読む・書く	
4	アルファベット 身の回りの単語	基礎英語聴取 アルファベットの発音(アルファベッ ト読みと単語の中での音の違い) 挨拶のし方	アルファベットの書き方・読み 方(読みと実際の音の違い) 単語の書き方	英語の歌
5	L1:I am Tanaka Kumi (amとareの文) We're Talking 1 (はじめ まして) L2:My School (This/ That/He/She isの文, what)	基礎英語聴取(表提出) 数字、日付、曜日 誕生日のいい方	文の書き方(ピリオド、単語の 間隔)	英語の歌

6	We're Talking 2 (What time) L3:I Like Soccer (一般動詞の文・自己紹介) We're Talking 3 (where)	基礎英語聴取(表提出) 好きなもののいい方 家族の紹介 自分の日常生活を説明	自己紹介文の書き方(一人称の文)	英語の歌
7		基礎英語聴取(表提出) 子音の発音指導 スキットコンテスト		英語の歌
8		基礎英語聴取	基礎英語夏休み問題集	
9	L4: Field Trip (複数形、命令文) We're Talking 4(How much) L5: Our New Friend (who, where, him/her)	基礎英語聴取(表提出) 基礎英語夏休み明けリスニングテスト		英語の歌
10	We're Talking 5(whose) L6: My Family (三単現) We're Talking 6(what time)	基礎英語聴取(表提出) ALTへのペアプレゼンテーション	Green Book(リスニング問題集)	英語の歌
11	L7: Sports for Everyone (can) We're Talking 7(can) L8: School Life in the USA (進行形)	基礎英語聴取(表提出) ALTへのグループプレゼンテーション インタビューテスト(家族等の紹介) 教科書の音読テスト	Green Book(リスニング問題集)	英語の歌
12	We're Talking 8 (How can we...?)	基礎英語聴取(表提出) 発音指導		英語の歌
1	L9: Four Seasons in Japan (過去形) We're Talking 9(which)	基礎英語聴取(表提出) ALTへのグループプレゼンテーション 教科書の音読テスト	冬休みについての作文(過去形) Green Book(リスニング問題集) 作文指導(日記)	英語の歌
2	L9: Four Seasons in Japan (過去形) We're Talking 9(which)	基礎英語聴取(表提出) ALTへのグループプレゼンテーション ミニスピーチ(2018年の頑張ったこと)	Green Book(リスニング問題集) 作文指導(日記)	英語の歌 Book 2配布
3		基礎英語聴取(表提出) 発音指導	英語日記	英語の歌

(執筆担当: 森)

2 年生は教科書を中心とした授業を週に 3 時間、A L T と T T で行うコミュニケーションを中心とした授業を週に 1 時間行っている。これまで練習してきた「文字と音の一致」を大切にしながら、口頭練習や音読をたっぷり行なって基礎基本の定着を図り、それを土台に発表や作文などの表現活動、A L T との会話へと発展させていった。また、2 年生になってからは「読む」ということにも力を注いでいる。

日々の取り組みについて、以下の項目で詳しく紹介したい。

(1)教科書を中心に扱う授業

教科書本文は、主にピクチャーカードを使いながらオーラルイントロダクションを行う。トピックによっては教科書に載っていない情報も提供して、生徒が興味を持ったり、視野を広げて考えたりすることを促している。教科書本文の内容理解ができれば、丁寧に音読を行う。方法を変えながら練習を重ねる中で、教科書本文を自分の言葉で再現できるようになることや、教科書の構成を参考にして自分のことに置き換えて表現することにつなげている。

(2)発表活動

教科書をすらすらと読めるようになったところで、ほぼ毎回発表活動に取り組んでいる。まとまった文章であれば自分の言葉で再現するリテリング、さらに自分の考えも付け加えての発表など、表現の幅も広がってきている。Let's Talk! など会話表現の単元では、自分達で工夫して状況設定を変えたりしながらスキットづくりをすることが多い。意外な展開にしてみたり、オチで笑わせてみたりと楽しく活動している。

3 学期には比較の表現を学ぶ単元でプレゼンテーションを扱った。教科書で調査の手順や発表のしかたの「型」を学び、そのあと実際にクラスメイトにアンケート調査をし、班で分析・考察してスライドを作り、プレゼンテーションを行った。トピック設定や考察が生徒ならではの内容になっており、お互いに刺激になったようである。

(3)外国人講師との T T (担当教師：平山 黎、Jackie Dang)

2 年生になってからは、A L T と 1 対 1 で話す機会をより大切にするようにした。1 年生のときには持ち時間 1 人 1 分でインタビューを行うことが多かったが、毎週 A L T と触れ合うことで少しずつフリートーキングに慣れ、2 分間会話をもたせられるようになってきた。「教室で学んだことを A L T 相手に自分の言葉で話す場を」ということで、教室での授業と効果的に連動するよう気を配りながら計画した。なお、インタビューは別室で行い、教室に残っている生徒はリスニングやライティングの課題に各自で取り組んでいる。

＜インタビューのトピック例＞

- ・春休みの出来事
- ・実際の路線図を使っの乗り換え案内
- ・今週末の予定
- ・夏休みの思い出
- ・スピーチコンテストのトピックについて … 実践例 1
- ・フリートーク

実践例 I

2学期のスピーチコンテストのために全員が夏休み中に原稿を作成し、発表の練習を行っているスピーチ仕様の語り口でほぼ丸暗記している状態のものを、ALTとの1対1の会話に転換した生きた会話になるため、丸暗記したことだけでは対応できない。質問を挟まれることもあれば、話の展開が変わることもある。大勢を目の前に行うスピーチとは話し方も変わる。ただし、「伝えたいこと」は生徒自身がしっかり持っているため、「何を話せばいいかわからない」という状況にはならない上、伝えるのに必要な語彙も確認済みである。生徒はある程度自信を持ってインタビューに臨み、小さな成功体験を得ることができる。このような活動はprepared からimpromptuに向かう一つのステップになりうるのではないかと考える。

<生徒Aのスピーチ原稿>

Hello, everyone. Today, I'm going to talk about my summer vacation.

This summer, I visited Hawaii, and I went on board a ship with my family. The ocean was really beautiful. I saw very big sea turtles. The sea turtles were swimming slowly, and they looked happy.

However, a tour conductor told me that a plastic straw stabbed a sea turtle's nose a few years ago, and many sea animals die because of plastic things. I was sad when I heard that. It's difficult not to use plastic things, but it's easy not to throw them away. People all over the world should stop throwing away plastic things on the beach. It's important for sea animals.

Thank you.

<生徒AとALTとの会話>

ALT: Hello. How are you?

生徒A: I'm good.

ALT: Good.

生徒A: This summer, I visited Hawaii.

ALT: Uh-huh.

生徒A: I went on board a ship with my family. The ocean was really beautiful. I saw very big sea turtles. Have you ever visited Hawaii?

ALT: Only the airport.

生徒A: Oh. (Laugh)

ALT: (Laugh)

生徒A: Ah..., a tour conductor is ...is uh, very kind, kind person.

ALT: Hmmm.

生徒A: And he told me that a plastic straw stabbed sea turtle's nose a few years ago. I was sad when I heard that.

ALT: Hmmm.

生徒A: Ah..., there was ..ah, it was very cold. The temperature was high, but the water was cold, so my family... (a gesture of shivering)

(4)ライティング活動

ALTのインタビューの順番待ちをしながら自習をしているときの課題として、トピックをリライティング活動をさせることがある。例えば「ゴールデンウィークは何をした?」「あなたの休

おすすめスポットは？」などである。教師がチェックをして、多かったミスや表現の工夫について全体にシェアすることもあれば、生徒がお互いに添削し合い、内容に関するコメントをつけて返す、という方法をとることもあった。添削し合って終わりにせず、教師の全体へのアドバイスやクラスメイトにもらったコメントをもとにリライトさせるところまで行くと、質の向上も目指せるのではないかと考える。

また、次の「実践例2」に示すように、手順を踏んで「行ってみたい国」についてのエッセイづくりにも取り組んだ。

実践例2

1、行ってみたい国について、ワークシートの質問に答える。

What country do you want to visit?
 Why do you want to go there?
 What language do people in the country speak?
 What is the good place to visit? Tell us about it?
 What is the famous thing/food there? Tell us about it.
 When is the best time to visit?
 What do you want to do there?

2、行ってみたい国についてもっと詳しく知りたいことを図書室の資料を使って調べる。

3、1のワークシートの質問の答えに、図書室で調べた情報を付け足して、行きたい国についてのエッセイにする。

4、優秀作品を図書室に掲示して誰でも見られるようにしておく。作品の近くに付箋を置き、「いいね」(Like)やコメントを書いて貼り、作品を見た生徒からのフィードバックを気軽にできるようにした。

<生徒の作品>

Republic of Austria

I want to visit Republic of Austria because it is a good country.
 It's located near Italy and Germany. The area is 84,000 km². It's like Hokkaido. People speak German. Chocolate cake "Sachertorte" is its famous food. It is delicious.

Vienna is a good city to visit. It is a capital of Austria. People call "The music city". There is W. Mozart's House in the city. W. Mozart lived many houses, but the house is a existing last house. Go there, you can feel W. Mozart's life.

Hallstatt is a good town to visit, too. It became "The Sound of Music" stage. It has good shore of lake. It is very beautiful.

I want to listen to the music by "Winner Philharmoniker." It is a famous orchestra in world. I like music and the trumpet so I interested in it. On New Year's Day, they hold a New Year Concert. So, I think that winter is the best season to visit. You should visit!

I want to visit Chile because it is a beautiful country. It is far away from Japan. It takes about 20 hours by plane to get there. People speak Spanish.

It is long and narrow from north to south. It has Easter Island. Many moai are in there. I will try and learn Spanish. I want to visit Island Chiloe. It is registered world Heritage Site. They are very beautiful churches. The churches stand on the water.

Island Chiloe

I want to eat seafoods in Chile, for example, sea urchin. Chilean seafoods are fresh.

I want to go to the market in Santiago. Many kinds of fresh food are in the market. The market hold along the river. Chile is long country from north to south, so it is cold and hot in there. I think that summer is the best season to visit. I want to visit there with my family.

(5) Extensive Reading (多読) の取り組み

2年生の2学期から、多読の取り組みを行っている。まずは図書館で1時間、本の選び方から丁寧に指導することから始める。辞書なしで読めるレベルで、興味がある内容の本を選び、実際に1冊読んでみる。「辞書なしで英語の本が読めた!」と感動する生徒も少なくない。1冊読むごとに、あらすじや感想をレポートにまとめ、月に1度程度、まとめて提出する。今後、おすすめの本を紹介するスピーチ活動にもつなげる予定である。

(6) 学習の習慣づけ

① ノートの活用

1学年では授業中の活動も家庭での復習も1冊のノートを使って行っていた。2年生になり、生徒それぞれの興味や得手不得手にしがって「自分で」学習課題を見つけ、習慣的に取り組んで欲しいということで「授業ノート」とは別に「自学ノート」を導入した。

「授業ノート」は、授業で配布されたハンドアウトを全て貼り、授業中の活動や板書、メモのためのノートとしている。授業で行ったことがすべてまとまっており、生徒は復習に役立てている。

「自学ノート」は、以下のようなメニューを紹介し、単なる「作業」のようなものにせず、力をつけるために何をすればよいか考えよう、頭を使うプロセスが入っているか時々チェックしよう、と声をかけながら、家庭での学習を促している。

<メニュー例>

- 1 教科書のディクテーション、英訳
- 2 英単語や英文のライティング練習
- 3 教科書の本文を、内容を変えずに自分の言葉で説明
- 4 教科書の本文を、自分なりにアレンジして(内容を少し変えて)書く
- 5 教科書にあるDrillやPracticeのコーナーに沿って英作文をする
- 6 Green BookやBlue Bookのディクテーション
- 7 ワークブックに書き込む前に一度ノートにやってみる/間違えた問題のやり直し
- 8 日記
- 9 基礎英語のテキストをもとにしたライティングや、今後使いたい表現のまとめ
- 10 好きな洋楽の歌詞の書き取りや意味調べなど

② Listening Marathon

NHKラジオ『基礎英語2』を家庭で聞かせている。毎日、新しく学んだ表現をListening Marathonの表にリストアップさせ、あとで見直し、英作文等に役立てやすいようにしている。

また、Blue Bookというリスニング教材を家庭で繰り返し聞かせるようにしている。ナチュラルなスピードで音声収録されており、聞き取るのが難しいと感じる生徒が多いが、続けることで耳が慣れてきたのを実感する声も多くあがっている。2~3レッスンずつ区切って集中的に聞くよう促し、確認のための小テストを行っている。

以上2つの課題に洋画や洋楽の視聴も含め、毎月Listening Marathonに記録させている。

カリキュラム表

月	教科書	スキル別重点活動		備考
		聞き・話す	読む・書く	
4	L1: Aloha! (過去形) Let's Talk 1 (道案内/ 交通機関)	基礎英語聴取 Green Bookテスト ALT interview (春休み) L1リテリング 英語の歌 "Stand by Me"	春休みの日記 Interviewの振り返り	
5	L2: Peter Rabbit (be動詞の過去形/過去進 行形/接続詞when) Let's Talk 2(場合に分け て説明するIf it's clear,~)	基礎英語聴取 ALT interview (道案内) L2リテリング Blue Bookテスト 英語の歌 (運動会の歌)	英作文 (ゴールデンウィーク) Interviewの振り返り	
6	L3: The Ogasawara Islands (未来/接続詞that) We're Talking② (理由 をたずねる) L4: Enjoy Sushi (There is / are~/動 名詞)	基礎英語聴取 ALT interview (Free Talk/The Ogasawara Islandsの紹介/夏休みの予定) L3 スキットづくり L4リテリング Blue Bookテスト 英語の歌 "Copacabana"	英作文(Peter Rabbitのあらすじ) Interviewの振り返り	
7		基礎英語聴取		期末テスト ノート提出
8		基礎英語聴取	スピーチ原稿作成	
9	Let's Talk 3(しなければ ならないこと・してはいけ ないことを説明するmust, must not) Let's Talk 4 (しなければ ならないことを説明 するhave to~) Let's Read 1: A Pot of Poison	基礎英語聴取 スピーチコンテスト (クラス内予選) ALT interview (夏休みについて/ スピーチのトピックについて/自分の 住んでいる地域の紹介 グループトー ク) Blue Bookテスト A Pot of Poison スキット	英作文提出 (夏休みの日記/自 分の住んでいる地域の紹介) Interviewの振り返り スピーチ原稿清書	スピーチコ ンテスト 本選
10	L5: Uluru (第2文型/ 第4文型) Let's Talk 5 (許可を求 める May I~?)	基礎英語聴取 ALTによるインタビュー (My Dream) A Pot of Poisonの上演 Blue Bookテスト L5リテリング 英語の歌 "My Favorite Things"	英作文提出 (My Dream) Interviewの振り返り Extensive Reading	

11	L6: My Dream (to不定詞)	基礎英語聴取 ALT interview (音読・Q&Aテスト/冬休みについて) L6のリテリング 英語の歌“I Just Called to Say I Love You”	Extensive Reading Interviewの振り返り	期末テスト ノート提出 ワーク提出 Book Report 提出
12		基礎英語聴取 英語の歌 “Walkin’ in the Winter Wonderland”	Extensive Reading 英作文(町紹介リライト/行ってみたい国のエッセイ/冬休みの日記)	
1	L7 : Presentation (比較級/最上級)	基礎英語聴取 ALT interview (冬休みについて) L7 Group Presentation Blue Bookテスト	冬休みの日記 Extensive Reading Interviewの振り返り	Book Report 提出
2	L8 : India, My Country (受身) Let's Talk 6 (電話/依頼する) Let's Talk 7 (苦情を言う/提案する)	基礎英語聴取 ALT interview (調べたことを説明する) Blue Bookテスト 英語の歌 “Honesty”	英作文 (二者択一) Extensive Reading Interviewの振り返り	期末テスト ノート提出 ワーク提出 Book Report 提出
3		基礎英語聴取	Extensive Reading Let's Read 2 Further Reading 1, 2 春休みの日記	

(執筆担当：菊池)

1. 指導の具体

70回生の指導においては、「読むこと」「話すこと」「書くこと」「聞くこと」における取り組みを通して、言語知識と技能をより流暢に活用できる自律的な学習者の育成を目的とした取り組みを計画、実践してきた。それぞれの技能の指導に加え、技能を統合的に活用していくための取り組みを工夫しながら取り組んだ。以下にその学習者の自律に向けてどのような実践（練習）を重ねたのか、その具体の一部を述べる。

2. 実践事例

本稿では、2018年11月に行った授業実践について報告する。本実践の事前に行ったタスクにおいて、テーマに対する自分の考えをまとまりを持たせながら表現すること、サポートセンテンスを読み手にわかるように表現することに課題が見られた。そこで、簡単なテーマでまとまりのある英文、サポートセンテンスを表現する練習に取り組ませた（図2）。その中では、英語に直しにくい日本語をどのように英語に直していくかわからないという課題が多く生徒に見られた。

図2におけるタスクで上がった英語に直しにくい日本語内容として、「食欲の秋」「冬といえばコタツだ」などが挙げられた。その課題解決に際しては以下の順序を踏んだ。

- ①モデルとする日本文をどのように解釈し、英語の知識を活用すれば英作文することができるかを教師－生徒間で共有する。（方略的能力の活用）
- ②課題に個人で取り組ませる。その後グループにおいて創作した表現内容について比較・検討する。
その手順を踏んだ後、生徒の創作した英文を回収し、まとめたものをフィードバックする。
生徒が創作した英文は以下の通りである。

○食欲の秋

the hungry season	the season we eat food much more naturally.
the season that food makes us <u>eat</u> more.	the season that lets us eat more.
the season makes us get hungry	the season that has a lot of delicious foods
the season we become hungry	the best season to eat and eat.
the season we can eat and enjoy delicious food.	the season we feel food is delicious

○冬といえばコタツだ！

Winter is a season of Kotatsu.
Kotatsu is a sympl of winter.
Speaking of winer, kotatsu comes up first in my mind.
The word "winter" reminds us of kotatsu.

ここまでの練習をもとに、What are the memories you remember clearly in your Setagaya Junior High School life?というテーマに対する課題作文（図3）に取り組ませた。

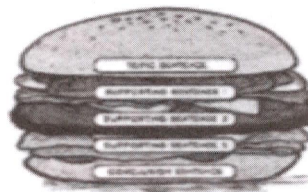
Think of "Supporting Sentence" It is not until ～してはじめて

What is Supporting Sentence?

: Topic Sentence の後に続けて書く、TS を補強・説明する文

TS: I like winter better than summer.

SS: Many people who don't like winter may think "I don't like winter because it's very cold". But if we think from the other angle, we will be able to enjoy the season. I can enjoy winter because I like skiing. It is very cold of course, but the cold can make us feel comfortable. It is not until you enjoy skiing in the snow mountain that you know how comfortable the cold is.



hunger of fool

winter is kotaku

TS: I like summer better than other seasons.

In summer, we will be able to go swimming at the sea.
A lot of fish is swimming in the sea, so we can see that.
The sea will be warming, so someone can swim or play.
But summer has more dangers than other seasons. So we must be careful to play in the summer.

If we do that we will
do,
the summer
vacation
is full of
playing.

図2 まとまりのある英文表現の練習

★What are the topic sentences?

The school trip is my important memory.
For example, We went to Kyoto and Nara in group doing.

★Express your ideas in 60 words.

Introduction

I remember the memories clearly in my Setagaya Junior High school life is the school trip about Kyoto and Nara.

Body

We went to Kyoto and Nara in the school trip.
We went doing in group. My group is very friendly so I enjoyed.
We saw many temples. We enjoyed this time.

Conclusion

These memories are my memorial treger.
I have important this memories forever.

表現したかったけどわからなかった内容

その場で...
努力を
ふとめ

工夫したところ

班の和を friendly を使って現した。→ 友だちと...関係が...
よく...なる

Grade 3 Class () Number () Name ()

図3 課題練習後の英作文タスク

図2、図3はどちらも同じ生徒の取り組み内容である。英作文の内容を見てみると、次のような指導上の課題が明らかになる。

- ・英文を作成させた後、さらにテーマに即した内容になっているかを検討させること。
→英作文するためのアイデア、文法事項の機能的側面・正確性を検討させる。
- ・取り組むタスクの手順や内容に対する習熟をさせること。
→何をするのが事前にわかる状態にさせることによって、より知識・技能に焦点を当てさせる。

本実践のふり返しからは、短期的に改善していけることと、長期的な視点を持ち体系化させていかなければならないことがあることが明らかである。そこには、生徒のできることに応じ、前は手立てとして示していたものを改良し、次のレベルにあるものを提示するなど、生徒の習得の段階に応じた仕掛けを展開していくことが必要となる。

上述した内容を踏まえ、指導の工夫として図化したものが図4である。実践に当たる際の工夫点として検討する内容が2点挙げられる。

一点目はタスクの設定である。Lyster & Sato (2013)では、難しい条件で習得されたスキルは異なるコンテキストで用いられたものよりもより長く保持されることを明らかにしている。授業内に取り組ませるタスク内容を生徒がよりチャレンジしながら取り組んでいけるようなステップを検討することが必要である。二点目はscaffoldingの調整である。インプットからアウトプットへの流れにおいてそれぞれ生徒が課題を感じる点が存在する。それらをどのように克服させていくかは指導上重点的に検討されるべき課題である。また、生徒の習熟に応じて適切なscaffoldingを設定したり、逆に習熟したscaffoldingは手立てから外したりするなどの工夫を加えていくことが習得に功を奏することが考えられる。生徒がアウトプットする質や量を改善していける実践上の手立てをさらに明らかにすることが課題として挙げられる。

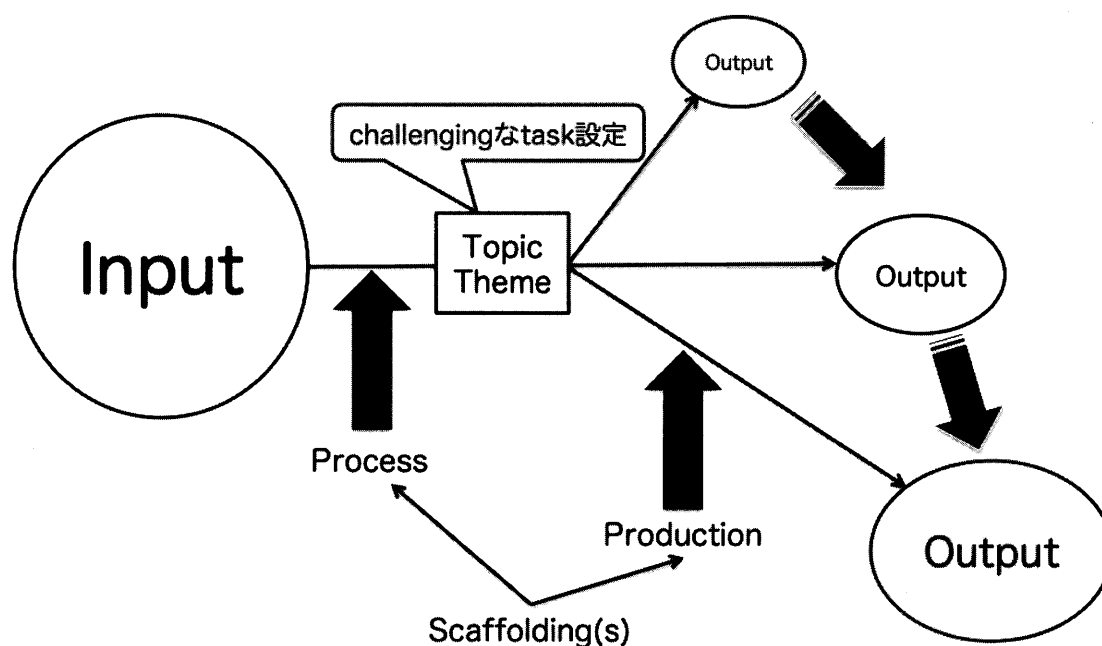


図4 習得に向けた指導モデル

3. まとめ

三年生は中学校のまとめの学年であることから、一、二年生の時の学習が土台となり、さらに発展させていく必要がある。そのような基本的なことではあるが、指導者の信念としてしっかり実践され

ているかと問われれば不十分であると言わざるを得ない。指導・実践において「習得を紡いでいく体系的な思考」をさらに深め、実践に反映させていくことはこれからの大きな課題と言える。

本年度の実践を振り返り、執筆者が考える課題は以下の点である。

- ・アウトプットしたものに対する評価→フィードバック→再考
- ・より効率的にアウトプットできるようにさせる（繰り返しのような）手立ての定位置化
- ・タスク（活動手順）への習熟（タスクの定期的、意図的な使用）→scaffoldingの調整
- ・言語の「習得」（特に流暢性）についてどのように促していくかの検討

学習指導要領を通して「深い学び」を展開していくことが求められている。しかし、それは教師が「深い学び」を生徒にさせることではないと考える。これから取り組んでいく英語教育において、生徒が持っているスキルや知識を見極め、力量に応じた適切な課題を設定していった結果として「深い学び」をしている状態にまでたどり着かせるための手立て、指導のコツをさらに明らかにしたい。

Reference

Lyster, R., & Sato, M.(2013). Skill acquisition theory and the role of practice in L2 development.

In M. G. Mayo, J. Gutierrez-Mangado, & M. M. Adrian (Eds.), Contemporary approaches to second language acquisition (pp. 71-92). Amsterdam: John Benjamins.

DeKeyser, R. M. (2007). Practice in a second language: Perspectives from applied linguistics and cognitive theory. Cambridge: Cambridge University Press.

カリキュラム表

月	教科書	スキル別重点活動		備考
		聞き・話す	読む・書く	
4	L.1: My Favorite Words (受動態の復習) Let's Talk 1 (Could you tell me how to get to...?)	基礎英語聴取表提出	春休みの日記提出 英作文 (School Trip) Select Readings(SR) 1	
5	L.2: France—Then and Now(現在完了) Let's Talk 2 (What's wrong?)	基礎英語聴取表提出 教科書L.2のリテリング	教科書L.2のライティング 英作文 (Motto) SR2,3	
6	L.3: Rakugo Goes Overseas (現在完了) L.4: The Story of Sadako (callとmakeの第5文型, It is ... for you to ~)	基礎英語聴取表提出 教科書L.3のリテリング ALTとのインタビュー	英作文 (Sports Day) 教科書L.3のライティング SR4	校内実力テスト① 期末テスト ノート・ワーク提出
7	L.5: Places to Go, Things to Do (関係代名詞)	基礎英語聴取表提出 スピーチコンテストの準備 Red Bookの取り組み	英作文 (The Story of Sadako) SR5	
8		基礎英語聴取 Red Bookの取り組み	スピーチ原稿作成 英作文 (Summer Break)	校内実力テスト2

9	L.4: The Story of Sadako (Read) Let's Talk 3 (Would you...?) L.5: Places to Go, Things to Do (Read)	基礎英語聴取表提出 スピーチコンテスト Red Book確認テスト 教科書L.4/5のリテリング	ポスター作成 (Places to Go, Things to Do) 教科書L.4の要約 SR6	
10	Let's Read 1: Dolphin Tale L.6: I Have a Dream (後置修飾) (Read) Let's Talk 4 (Would you like ...?)	基礎英語聴取表提出 Red Book確認テスト	英作文 (Geihatsu) Debate Script 教科書L.6の要約 SR7	
11	L.7: English for Me (want A to do..., 間接疑問)	基礎英語聴取表提出 インタビューテスト Red Book 確認テスト (期末テスト) 教科書L.6のリテリング	教科書L.7のライティング SR8,9	校内実力テスト③ 期末テスト ノート・ワーク提出
12		基礎英語聴取表提出		
1	Let's Read 2: We Can Change Our World	入試聞き取りテスト対策 教科書L.7のリテリング	入試長文演習 リレー英作文 SR10,11,12	
2	Let's Read 3: The Story of Nishikori Kei		英作文 (English for Me) SR13,14	

(執筆担当：山城)

1. 2. 10 学校保健

遠藤 真紀子

1. 研究主題

「しなやかな心で前向きに生きる力の育成」—中学校における心の教育を考える—

2. 研究主題について

保健室に来る生徒の中には、様々なストレスに対処することができず、精神的な疲弊感から身体面にも不調をきたす子どもも少なくない。特に人間関係において、小さなトラブルを避けようとするために、過剰に心配したり、劣等感を持ったり、攻撃的になったり、無関心を装ったり、行動する前から諦めてしまったりというケースを目にする。

そのような場面においても、自分の考え方の特徴を客観的にとらえ意識的に違う見方をするなど、複数の対応方法を知ること、困難な状況につぶされることなく前向きに生きぬく力を得られるのではないだろうか。自己肯定感の低い生徒など、今の自分をまるごと受け入れることができると、気持ちが落ち着いて、一歩先を目指すエネルギーが出てくることも多い。

中学生の時期は子どもの部分と大人の部分が混在し大きく揺れることがあるが、個別支援では他者との比較ではなく、自身の成長という視点を意識させることが大切である。また、自分の置かれている環境やその時の心の状態を客観的に観察し調整する力、へこんでもつぶされない回復力など、身体面における「基礎体力」に相当する「基礎心力」を高める力を育てたい。

3. 研究の経過と概要

(1) 教育相談システム

本校では、平成20年9月にスクールカウンセラーが配置され、週1回教育相談室を開室してきた。教育相談システムとしては、生徒や保護者の個別面接利用の他、昼休みの相談室自由開放や図書室での相談活動、生徒対象のミニワークショップ、保護者対象の講演会などを通して、相談を必要とする生徒や保護者がつながりやすいような工夫を行った。

担任や学年団との連携をより深められるよう、スクールカウンセラーの勤務時間や面接枠を見直し、個別支援が必要なケースでは、大学を通して学習支援員の協力を仰ぐなど、支援体制の強化を試みた。保護者の個別面接で担任や養護教諭と一緒に支援計画を立てたり、外部の専門機関と連絡を取りながら継続的な支援を行うなど、校内連携・校外連携を整えながらケースに対応してきた。個別支援の中で、心理系の大学院生をメンタルフレンドを兼ねた家庭教師として紹介し、学校と連携を取りながら家庭での学習面と心理面の支援をしてもらったケースもあった。

附属世田谷小学校とは、小中の教員全体で児童生徒についての情報交換の他、特別支援に関する研修なども行っている。特別支援教育委員会（スクールカウンセラーを含む）の小中連絡会では、委員会のメンバーが学期に1度程度集まり、ケース会議を行ってスーパーヴィジョンを得たり、相談システムの小中連携を進めるなど、校種を超えた支援のあり方を探ってきた。

(2) 集団指導（公開授業）の実施

公開授業では、3年生を対象に、「折れない心の話」のテーマで50分の集団指導を実施した。ペアワークを通して、相手との時間・空間の共有、視覚情報・聴覚情報の整理を体験する活動を行い、相手と自分の双方を考慮しながら判断を求められるときの頭や心の中での動きを体感した。相談場面でのワークでは、相手に伝える言葉や伝え方の工夫を考え、実施後には感じたことを伝え合い、両者の相違点を探った。グループワークでは、相談する方もされる方も「心が折れない」「たかい」力を得ることを目標に、ポイントを整理した。

1) 本時の目標

コミュニケーションについて学び、気持ちの伝え方や受けとり方に配慮することができる。

2) 本時の位置づけ

本時は「生活学習」の健康領域として実施した。本校の「生活学習」は、各教科の学習である「基本学習」、テーマ研究や教科総合などを含む「総合学習」と並び、第3の学習形態として本校カリキュラム構造の柱のひとつと位置づけられている。「生活学習」では、「基本学習」の枠に入らないさまざまな学習内容を「社会領域」「健康領域」「体育領域」「芸術領域」「情報領域」「自然領域」の6領域に分類し、学級活動や学校行事、道徳や特別活動などを通して、「人間関係形成力」「社会参画力」「自律的活動力」などの力を育成している。

本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
1. ペアワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で向かい合わせに立ち、ペアの相手と両手を軽く合わせる（ハイタッチ）間に、拍手を挟む。拍手の回数を、1→2→3→4→5→4→3→2→1と変えて、最後にタッチしたところで1クール。途中でミスしたら最初からやり直し、ノーミスで2クールできたら着席する。 ・ペアの一方（A）が両手でポーズを作り、一コマずつそのポーズを変えていく。他方（B）は、Aのポーズを一コマ遅れで真似をし、続けていく。AとBを交替する。 ・ポーズを言葉に変え、同じようにする。Aは、ひとつずつ区切って話し、Bは一コマ遅れでAの言葉を繰り返す。AとBを交替する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明した後、一人の生徒と見本を見せる。 ・向かい合わせに立たせる。 ・ゆっくり数えながら一緒に練習してみる。 ・続かないペアには声をかけ、一緒にやる。 ・鏡の関係で真似をする。 ・一定のリズムで合図を出す。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">情報収集・選択</div> <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を「桃太郎」「浦島太郎」など、簡単なものに指定する。
2. ペアワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・場面設定を聞き、友達の相談を受けた立場になって相手にかかる言葉を考え、ワークシートに記入する。言葉以外で配慮することがあれば、それも記入する。 ・ペアで実演してみる。まずAが相談者役になり、Bの言葉を聞いて感じたことをワークシートに記入する。次にBが相談者役になり、同様にワークを進める。 ・ワークシートの内容をお互いに伝え合う。相手の気持ちを聞いて感じたことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・ワークの内容を説明し、場面設定を音読する。 ・身体ごと向き合うように座らせる。 ・Aは、Bの言葉にうなずいたり言葉を返したりしてもよいことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">問題発見</div>
3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・相談への返事をグループで考える。各自が記入した付箋紙をもとに、グループとしての意見をまとめる。 ・伝えたい内容・伝え方の工夫・NGワード・避けた行動の4点について、ポイントを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで1枚のワークシートを使用する。 ・いろいろな意見がワークシート上に残るように付箋紙の貼り方を工夫させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">解決の実行</div>
4. ふり回り <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションには言葉によるものと言葉を使わないものがあることを知り、それぞれの特徴について考える。 ・具体的なコミュニケーション手段にあてはめて考える。 ・実際にこのような場面に出会った時、自分にできること、できないこと、やるべきこと、やってはいけないことは何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を使わないコミュニケーションの大切さを認識させる。 ・コミュニケーション手段の特徴を確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">振り返り</div> <ul style="list-style-type: none"> ・援助要請力について伝える。